

2020.1.20.「聖書預言アップデート」

携挙が7年間の患難の前に起こる証拠（新約聖書：第1テサロニケ 4章 13節～18節）

JD ファラグ牧師

では「聖書の学び」テサロニケ人への手紙第一4章、13～18節です。可能な方は、お立ち下さい。私が読みますから、一緒について来てください。ご無理な方は、座ったままで結構です。使徒パウロは聖霊によって、テサロニケの教会宛に手紙を書いています。

テサロニケ人への手紙第一4章

13 眠っている人たちについては、兄弟たち、あなたがたに知らずにいてほしくありません。あなたがたが、望みのない他の人々のように悲しまないためです。

あなたがたはまだ悲しんでいます、望みを持たない人たちのようには、という意味です。そして14節が、その理由です。

イエスが死んで復活された、と私たちが信じているなら、これが福音です。

...神はまた同じように、イエスにあって眠った人たちを、イエスとともに連れて来られるはずで

繰り返しますが、亡くなった人たちのことを言っています。

15 私たちは主のことばによって、あなたがたに伝えます。生きている私たちは、主の来臨まで残っているなら、眠った人たちより先になることは決してありません。

16 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、

17 それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、"いつまでも"主とともにいることとなります。

18 ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。

すごい！ 鳥肌です。祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。主よ、今この時、あなただけがお出来になるように、あなたの御言葉の学びを祝福し、油を注ぎ、私たちが理解できるよう祝福してください。特に、今日私たちの前にあるこの教義、この箇所に関して。主よ、あなたの聖霊によってお語り下さい。私たちはイエスの御名で祈ります。アーメン。アーメン。

お座りください。ありがとうございました。というわけで、おそらく言うまでもないことでしょう。今この箇所を読みながら、私には皆さん全員の顔つきが見てとれました。きっと、皆さんの多くと同じだと思いますが、私はこの箇所を本当に楽しみにしてきました。その理由は明らかだと思います。主が、使徒パウロが神の御霊によってこの教会に向けて書いている具体的な内容のゆえです。教会携挙についての、健全な教えに関して。今日の6つの節・聖句には、3つの証拠があるのですが、聖書の中には多くの証拠、敢えて言うなら「非常に多く」とも言える証拠があります。なぜ携挙が、7年間の患難時代前に起こらなければならないのかということについてです。「うわー、牧師さん、かなり独断的ですね。」そうですよ。「ですが、牧師さん、失礼ながら、患難時代前携挙の教義は、救いの問題ではありませんよ。」その通りです。しかしながら、「しかしながら」が付くのです。それは救いの問題ではないかもしれませんが、間違いなく聖化の問題なのです。私はその理由と、そこに至るわけを説明します。この衝撃、この真理、

この健全な患難時代前携挙の教義は、私たちの生活に深い衝撃を与える可能性があります。使徒ヨハネが、第1の書簡、3章2～3節で書いている事に耳を傾けてください。「愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようなになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。」そして、彼はこう言っています。

「キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。」
(第一ヨハネ 3:2～3)

言い換えれば、この希望を持つ人々は、もういつでも主が戻って来られることを期待しつつ、あるいは予期さえしつつ、生活します。彼らは何をするのでしょうか？ 主の現れにこの希望を持っている人たちが？ 彼らは何をしますか？ ああ、彼らは自分自身を清くし、身辺を整理し、準備をします。そして彼らには用意ができています。なぜなら、主はもういつでも来臨されることができるところからです。教会がどういふわけか、7年間の患難時代の一部、あるいはそのすべてを経験することを万が一、私が信じるとするならば、皆さんは、実質的に、この不躰な言い方を許してください。でも、皆さんは、このような聖句が書かれた聖書ページを破り取らなければならなくなります。そして、他の多くの部分も同様に、です。私が今日取り組みたいのは、3つの証拠を見る事です。私は「証拠」という単語を使います。それが強い言葉であるのは分かっています。ところで、携挙に関するあらゆる教えから、顕著に欠けているのが、この「理論」という言葉でしょう。理論じゃないのです。それは真理なのです。それは教義です。健全な教義です。そして、今日私がしたいことは、どうかお許しください。私は、自分が患難時代前携挙に、非常に情熱を持っていることを自覚しています。私は最善を尽くします。賛美の間、主に、私を静めてくださいとお願いしました。時にそれは、ちょっと難しい注文だと思えますが。しかし、これに関して、私を落ち着かせてくださるように、と。私はこれが非常に、う”～こんな風に言わせてください。これはYouTubeにアップロードされる礼拝ですから。患難時代前携挙に関する教えの何にでも反論、論争する人が多くいます。そしてその辛辣な言葉、その悪質さは、本当に嘆かわしい事です。だから私は、特に、オンラインで見ている人のためにこう言いたいと思います。とにかく早く、見解の相違を認め合うことにしましょう。しかし神の御言葉と、また、今日、私たちの前にある聖句に関する限り、私は皆さんに、なぜ携挙が、絶対に7年の患難時代前に起こらなければならないのかをお見せしたいと思えます。

まず1つ目です。それは、それが「神のラッパの響き」だからです。最初に読むと、これは重要ではないように思えます。つまりここにあるのは、漠然とした記述だとさえ言うかもしれません。このラッパが鳴り響くと、告げられているのが。しかし、それは神のラッパの響きです。16節に留意してください。パウロが言います。この大きな号令があつて、それとともに、御使いのかしらの声と、そして非常に重要なことですが、「神のラッパの響き」です。「いいでしょう、牧師さん。では、これはどうやって、携挙が7年間の患難前であることを証明するのですか？」なぜなら、聖書には、2種のラッパがあるからです。イスラエルのための「御使いのラッパ」があり、そして教会のための「神のラッパ」があります。どうか、どうか、どうか、その区別をしてください。多くの人々は、患難時代前携挙の健全な教義に関して、教会とイスラエルを区別しそこなう時に多くの問題に巻き込まれます。そして事実、私はそれをさらに突っ込んで、言いましょう。「置換神学」と呼ばれる偽の教えは、神に選ばれた民として教会をイスラエルと置き換えるのです。その偽の教義、その偽りの教えは携挙に関する他の教えと、携挙に関する偽りの教えと同居するものです。なぜなら、いいですか、教会がイスラエルに取って代わるならば、教会を患難時代に、

置かざるを得なくなります。なぜか？ 患難時代の目的は、ユダヤ人の救いのためだからです。そして、あなたがその区別をしそこなうと、あなたは基本的に、教会を患難時代に置いているのです。教会を患難時代に置く目的は何ですか？ 教会はすでに救われているのです。花嫁はすでに救われているのです。なのになぜ花嫁が、患難時代を経験する必要があるのでしょうか？ そうではありません。患難時代は、イスラエルの為なのです。だから、御使いのラッパの響きがあって、それはイスラエルのためのもので、そして、神のラッパの響きがあって、それは教会のためのものです。「マタイの福音書 24 章」で、イエスが言われたことを聞いてください。「再臨」についてを話しておられます。そしてイエスは、弟子たちにイスラエルのことを話しておられます。イエスの言われることを聞いてください。

マタイの福音書 24 章

30 そのとき、人の子のしるしが天に現れます。そのとき、地のすべての部族は胸をたたいて悲しみ、人の子が天の雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見るのです。

”すべての部族”です。これは、すべての人が目にする”再臨”です。

「人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。御使いのかしらですらありません。ただの御使いたちです。「大きなラッパの響きとともに、」これがイスラエルの為の、ラッパの響きです。

「すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。」

(マタイ 24 : 31)

それが違いです。テサロニケ人への手紙の中で、パウロは、それを非常に明確にしています。それがイスラエルの為の、御使いのラッパではないことを。

これ（テサロニケ）は、教会の為の、「神のラッパの響き」なのです。

2 つ目。これが、分かり切ったことのように聞こえるかもしれないのは分かっています。しかし、この聖書箇所内にある、患難時代前携挙の第二の証拠は、私たちが空中に引き上げられる、ということです。

私は皆さんに、17 節に注目していただきたいです。ここが、実際に「携挙」という言葉が聖書に出てくる箇所です。そうなんです。ラテン語の聖書をお持ちなら。今日ここにラテン語の聖書を持っている人はいますか？ 挙手お願いします。どなたもおられない？ ルーマニアのオンラインメンバーがいて、前回、私がこのことを言及した時、コメントを投稿してくださり、「ルーマニア語では、『携挙（ラブチャー）』という単語です。」と仰いました。だから、どなたかルーマニア語の聖書を持っていますか？ 「携挙」という言葉は、あなたがお持ちの聖書の言語によっては、聖書の中にあるのです。さて英語では、2 つの英単語で翻訳されています。”caught up（挙げられる）”ギリシャ語では「ハルパツォ」、ラテン語では「ラプトゥロー」。そして、それは大きな力ものすごい速さで、引き上げられることを意味します。携挙される！ 掠め奪われる！ 即座に！ それがこの言葉の意味です。では、17 節に戻ります。パウロが語っています。

「それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ（携挙され）、空中で主と会うのです。」

ところで私たちは、キリストにあって亡くなった人々より先になることはありません。なぜなら、肉体の復活が先だからです。キリストにある死者が先によみがえります。ご辛抱いただけるなら、私はこれをざっと説明する必要があるかもしれません。しかし、私がこれについて聞いた中で最も良い説明は、電球の例えでした。いいですか？ 電球が切れます。どうしますか？ 私たちはそれを取り外し、ゴミ箱に入れます。それは、それがつくられた地に戻ります。電気はどうなりますか？ その源に戻ります。光は？

それは止まったままです。私たちは、その電球のようです。私たちが死んだら、私たちの肉体は、その電球のように土に帰ります。塵は塵に、それがつくられた場所へ帰ります。電気は、霊のように、その源に戻ります。「肉体を離れて、主のみもとにいる」のです。(2コリント 5:8 参照) 光はどうなるのでしょうか？ それが魂です。死んでいます。そして、私たちが栄光の体を持つとき、それは再び、永遠に生きるのです。そして、肉体の復活が起こる時、それが最初に起こるのですが、その時、彼らは新しい体を得ます。そして私たちは、パウロが「第1コリント 15章 51節～52節」に書いています。私たちは古い肉体を脱ぎ捨てます。もう待ちきれません！

「この朽ちるものは、朽ちないものを必ず着ることになり、」(第一コリント 15:53)

「一瞬のうちに(in the twinkling of an eye)変えられます」(第一コリント 15:52)

ところで、これはたぶん、これについては5章でお話するでしょう。でも。それはナノ秒の何分の一です。それくらい速いです。生き残っている私たちが、新しい体を手に入れる時です。だから電球は肉体で、電気は霊です。そして魂は光です。パウロが言っていることは、キリストにある死者が、先に復活するということです。それが彼らの肉体的復活です。さて、彼らは今どこにいるのですか？ 今、彼らの霊は、主と共にいます。「肉体を離れて、主のみもとにいる」のです。そして、彼らがまず彼らの肉体を得ます。いいですね。それから、生き残っている私たちが、瞬時に、私たちの新しい肉体を手に入れます。そして、私たちは空中で彼らに会うのです。では皆さん、お聞きになりたい事があるでしょう。皆さんの考えが読めますから。ちょっと待って、今何かが入ってくる。ああ、うわー。あららら。「これは、私たちが引き上げられること、携挙されること、ハルパズ、それをどう呼ぶとしても、それが7年間の患難時代前であることをどう証明するのでしょうか？」聞いてくださって、大変嬉しく思います。私は皆さんのその質問にお答えしますから。それが患難時代前携挙を証明する理由は、ユダヤ人の花婿が、思いがけないとき、誰も知らない時、夜中の盗人のように来るからです。そして、彼らは彼らの花嫁を奪い、連れ去ります。それが、イエスがここで仰っていることです。

皆さん、私がこれをやってから数年が経っています。だから、私は主に尋ねた後で、今日もう一度、このことについて話すのが適切だろうと考えました。それは私に言わせれば、患難時代前携挙の証拠のうち、最も納得のいく、説得力あるものの一つです。それは古代ユダヤの結婚式の習慣と関係があります。それは予型です。それは、患難時代前携挙のこの素晴らしく、美しい実態を表しています。皆さんが理解されているといいのですが、イエスが弟子たちに語っておられるとき、間違いなく、彼らはそれを理解していたのです。イエスは、花婿が花嫁に話しかけるように、彼らに話しかけておられます。皆さんにお話ししたいのは、これは実際には、その予型を簡潔に説明するもので、具体的に、携挙が必ず7年間の患難時代前に起こらなければならない理由についてです。私はざっと進めますので、付いて来てください。ユダヤ教の結婚式では、結婚の誓約書：ケトウバを作成します。花嫁のために書かれたもので、花嫁への約束として、結婚式で実現されることになっています。私たちの結婚式では、それは新しい契約です。それは、花嫁としての私たちの為に、書き記された神の御言葉において、書面でなされていて、そして、旧約聖書の約束が成就されます。スクリーン(後ろ)に聖句を出します皆さん、それらを書き留めてもいいですし、皆さんのメモにもありますね。『ユダヤ人の結婚式』それから彼らはパンを裂き、婚約を確定するため、杯から飲みます。キッドゥシン、これは婚約式(ベトローサル)。新しい契約、結婚の聖約です。私たちの結婚式では、彼は最後の晚餐で、パンを裂き、杯から飲まれます。彼の新しい契約を、彼の血において確定するのです。私たちが、毎月第一日曜日に、一緒に聖餐にあずかるたびに、私たちは花婿イエス・キ

リストとの私たちの婚約を祝っているのです。このようにして、彼らはそれを確定するのです。花婿は今、私たちには書かれた聖約があります。そして、花婿は花嫁に杯を与えます。それから彼女は「私はあなたと結婚します」と承諾するという意味で、その杯から飲みます。「私と結婚してくれませんか？」

「私はあなたと結婚します。私は受け入れます。」そして、彼らはパンを食べます。そうやって彼らは、この新しい結婚の契約である婚約を確定するのです。ユダヤ人の結婚式では、花婿は、花嫁に彼女への愛を示して、モハール、代価を支払います。私たちの結婚式では、イエスが代価を支払われました。彼は十字架上で、彼の全てを懸けられました。これは、イエスが私たちの為にご自分の命を捨てられたこと以上の大きな愛が、他にはないことを示しています。ユダヤ人の結婚式では、ここが面白くなる所です。花婿は、婚約式（ベトローサル）の後、—彼らは今婚約を成立させています。—彼らはパンを食べ、彼らは杯から飲みました。そして今、彼らは結婚するために、婚約しています。それで、花婿はどうするでしょう？ 彼は自分の父の家に行きます。彼は、父の家に部屋を追加し婚礼部屋を建てます。イエスが弟子たちに仰いましたね。

「あなたがたのために、わたしは場所を用意しに行くのです。」（ヨハネ 14：2）

「わたしの父の家には、住む所がたくさんあります。」（ヨハネ 14：2a）

聖書の翻訳によっては、「屋敷」となっています。

「そうでなかったら、あなたがたのために、場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。」（ヨハネ 14：2b）

「わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。」（ヨハネ 14：3b）

イエスは、ご自分と婚約している花嫁に、花婿として話しておられるのです。さらに良いのがこれです。ユダヤ人の伝統では、唯一父だけが、その日とその時間を知っていました。花婿が戻って、花嫁を連れ去る時、携挙する時を。皆さん、結婚式の計画を想像してみてください。

招待状に、日付：不明。時間：不明。

父だけが知っている。父親以外は誰も知りませんでした。そしてイエスは、私たち、彼の花嫁のために、彼の戻る日や時間は、御父以外の誰も知らないと仰いました。（マタイ 24：36 参照）

さて、ユダヤ人の結婚式では、花婿が来るとき、花婿の付き添いが前方を走り、「彼が来るぞ〜」と叫びます。どうやって？ ラッパを吹いてです。私たちの結婚式では、私たちの花婿が来られるとき、それは神のラッパの響きです。「イエスが来られる」と。さて皆さん、スクリーンでお気づきでしょうか？ 黙示録 4 章 1 節。ここに理由があります。黙示録の初めの 3 つの章では、教会についての記述が、19 回あります。4 章 1 節以降、「教会」は一切出てきません。黙示録の 6～19 章は、全てが 7 年間の患難時代についてです。「教会」という言葉が 6～19 章で何回見つかると思いますか？ これは引っ掛け問題ではありません。「ゼロ」です。一度も出てきません。「教会」という言葉が、6～19 章にないのはなぜでしょうか？ そこはすべて、7 年間の患難時代について書かれていて、教会は患難時代に含まれていないからです！ それが理由です。なぜなら 4 章の 1 節で、ヨハネはラッパの響きのような声を聞きます。

「ここに上がれ。」（黙示録 4：1）

彼は携挙されます！ 今や、彼にあるのは未来だけです。ちなみに、4 章 1 節から 22 章まで、それはすべて未来の事です。私たちが今どこにいるかご存知ですか？ 私たちは、まだ 3 章にいます。7 つの教会宛の、7 つの手紙。2 章と 3 章、教会歴史です。4 章 1 節で、あのラッパが鳴って、ヨハネが携挙されて

からは、すべては未来の事なのです。実は、黙示録は面白いです。時間の関係上、あまり深入りしたくありませんが、本当に、ある人が名付けたように、この「神の概要」というものがあるんです。1章で、ヨハネは、こう言われます。

「あなたの見た事、今ある事、この後起こる事を書きしるせ。」(黙示録 1:19)

言い換えれば、過去、現在、未来です。

黙示録 1章：過去 彼はイエス・キリストが栄光を受けたことを目撃証人でした。そして今、御父の右に座しておられることの。それが黙示録 1章。

黙示録 2章と 3章：現在。 教会の歴史です。7つの教会に宛てた 7つの手紙。実在した教会です。

黙示録 4章 1節：携挙 6章～19章：患難時代

20章：千年王国

21章と 22章：新天新地

美しい！ それなのに、黙示録は、理解するのが難しい書だと言う方がおられます。それが、聖書全体の中で唯一、それを朗読する者と、それを聞いて、それを心に留める人々に祝福を約束している書であるのをご存知ですか？ (黙示録 1:3 22:7 参照)

さて、次です。ユダヤ人の結婚式では、花婿は花嫁を奪って、連れ去ります。私たちの結婚式では、私たちの花婿イエスは、私たちを携挙され、彼の花嫁として私たちを連れ去られます。ユダヤ人の結婚式では、花婿は、自分が父の家に、彼女のために用意したこの場所、この婚姻部屋に連れて行きます。そして、彼らは婚姻を完成「ニッサム」し、祝います。その期間は、よろしいですか？ いいですよ？

7：「シャブア」=7日間です。私たちの結婚式では、イエスが、御父の家で、私たちのために用意された婚姻の部屋に私たちを連れて行かれ、私たちは婚姻を完成し、7年の間祝います。ですから、その7年間の”前”、でなければなりません。ある解説者が、こんな風に言ったのが最高でした。

「この世が『患難している』間(7年間)、私たちはお祝いしているのだ。」私は患難時代にいたくありません。お祝いしたい、婚姻を完成をさせてたいです。ユダヤ人の結婚式では、大きなご馳走がでます。これは私に大きな慰めをもたらします。なぜなら、それは、天国に食べ物があるという意味だからです。ハレルヤ！ それって「アーメン」でしょう？ 皆さん、中東の文化を理解する必要があります。これは私のアラブ文化に当てはまります。中東では、すべてがご馳走を中心に展開します。食事。一緒にパンを裂くことで。そして「7」の期間の後、花嫁と花婿は、婚姻部屋から出てきます。彼らは、この巨大な結婚披露宴を開きます。「子羊の婚宴」です。もし7年の患難時代の間中点になるまで、花嫁を携挙しない場合は、問題があります。また御怒りが注がれるまで花嫁を携挙しないとしたら、問題があります。聞いてください。私は誇張するつもりはありませんが、予型にちょっかいを出してはいけません。それについては、モーセに尋ねるといいでしょう。彼はやっしまいました。ちなみに、そのせいで彼は約束の地に入れませんでした。彼は一度だけ、岩を打つよう命じられました。岩はキリストを表していて、水が湧き出しました。二度目の時、モーセはとても怒っていました。神はこう言われます。

「岩に命じよ。そうすれば水が出る。」(民数記 20:8 参照)

モーセはどうしますか？ 彼はそれを打つのです！ ほ～！！ 彼がそうやっしまうと、こんな感じですよ。「モ～(モーセ)！！！！」「絶対にダメだ！モ～！！！」あの岩は、二度打ってはいけませんでした。なぜなら、キリストは一度だけ十字架につけられた。一度だけ打たれたのです。十字架の後、岩には話しかける。あなたはキリストに話しかけるのです。ですから、モーセは予型を台無しにしました。

そのせいで、彼は約束の地に入ることができませんでした。予型とは、それほど重大なものなんです。旧約聖書のすべては、人としてのイエス・キリストを指しています。彼は、すべてのものを成就されます。全てです。全て。すべてのいけにえ、神殿でのすべての儀式、すべてが、人としてのイエス・キリストを指し示しました。ある人はこう言いました。

「旧約聖書は、新約聖書が明らかにする内容を隠している。」新約聖書は何を明らかにしていますか？ イエス・キリストです。すべては彼を指し示しているのです。では最後に、ユダヤ人の結婚式では、花嫁の新しい家は、エルサレムでした。そして花婿が、花嫁と一緒に住むために、花嫁のところに来たのでした。そして、新エルサレムから、私たちの花婿であるイエスが、その先永遠に私たちと一緒に住んでくださるのです。最後に、3つ目の理由です。携挙が、7年間の患難時代前に起こらなければならないのは、私たちが互いに励まし合うことができるからです。18節に注目してください。パウロがこう言います。

「ですから、これらのことばをもって互いに励まし合いなさい。」(テサロニケ第一4:18)

今、皆さんが理解しなければならないのは、テサロニケの人々は、非常に落胆し、非常に戦い疲れていたことです。彼らは意気消沈していました。パウロは彼らを励ましたいと思っています。そして、「この言葉でお互いを励まし合うことができる」と彼は言っています。では「それがどのように患難時代前携挙を証明するのですか？」さて、こう考えてみてください。パウロはなぜ「これらの言葉をもって互いに励まし合いなさい。」と、言えたのでしょうか？「地球の人口の3分の1が殺され、一掃される。7年間の患難の間は、言い表せない恐怖、考えられないほどの恐怖になるだろう。だから、お互いに励まし合いなさい。」それでは、辻褄が合わないでしょ？ さて、それはどう患難時代前携挙を証明するのですか？

理由は、それが7年の患難時代前でないとしたら、使徒パウロは、生き残ることについての警告を与えていたはずで、逃れることについてを伝えるはずで、励まし合うようにとは言わないはずです。おそらく皆さんは、携挙が「大脱走」と呼ばれるのを聞かれたことがありますね。私はそれが大好きです。実は、以前は好きではありませんでしたが。クリスチャンが、健全な患難時代前携挙の教義について善意で私にこう仰る時、「あ～あなたは、逃げたいだけだ！」私は、こんな感じです。「もちろん！そりゃそうです。あなたはそうではないの?!」「あなたはここにいてそれを経験したいのですか？ あなたは7年間の患難時代に、何が起こるかを讀んだことがありますか？」御心ならば、来週は5章です。その理由は、5章が4章の後に来るからです。私はそれが深～い意味だと知っています。私たちは、私のもう一つのお気に入り聖句に取り組みます。「聖書預言・アップデート」で非常に頻繁に話す聖句です。それが、テサロニケ第一5章3節で、ここに理由があります。パウロが言います。

「人々が『平和だ。安全だ。』と言っているときに、妊婦に産みの苦しみが臨むように、突然の破滅が彼らを襲います。それを逃れることは決してできません。」(テサロニケ第一5:3)

どうしてパウロはそんなふうにするのでしょうか？ 心に留めてください。彼は、ところで、章や節に分けられていませんでした。原本には章や節はありませんでした。それは後々になって、できました。だから、これは彼が次のように言い終わった直後のことなんです。「それから生き残っている私たちが、たちまち彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、…」「このことばをもって、互いに励まし合いなさい。」そして彼が「生き残っている私たちが」について話した後、彼は、これが起こるときに生き残っている「彼ら」について話します。私に言わせれば、重点は「私たちが」は逃れる、「彼ら」は逃れない、ということです。逃れることが携挙です。突如として滅びが起きたら、突然の破滅に関しては、皆さん、突然の破滅がどういうものかご存知ですか？ 突然です。またしても、深遠なのは分かっています。私は、気取ったり利口に

なろうとかしているわけではありません。それはものすごく突然に起こるんです！ ものすごく突如！そしてそれは、妊婦に産みの苦しみが臨むように、彼らを襲います。なお、これは救い主自身が終わりの時を描写する際に使われた例えです。それは産みの苦しみの始まりのようなものです。どんどん強度と頻度を増していきます。(マタイ 24:8 参照) 生き残っている「私たち」ではなく、「彼ら」に襲いかかります。「彼ら」は逃れることがない。生き残っている「私たち」は逃れるのです。だから、7年間の患難時代前でなければなりません。最後にもう一つです。それから締めくくって、「預言・アップデート」に移ります。

旧約聖書の全体を通して、患難時代前携挙の縮図があります。例えばヨセフ。7年間の飢饉の”前に”異邦人の花嫁をめとります。患難時代前携挙の青写真です。

ノアはどうでしょう？ 多くのクリスチャンは、「箱舟は救いだ」と言います。いえ、ノアと彼の家族はイスラエルを表しています。彼らは洪水に入り、洪水の真っ只中で救われます。

でもエノクは？ お～。(創世記) 5章です。もうたまりません。

「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。」(創世記 5:24)

とあります。そうです、神は彼を携挙したんです。洪水”前に”！ 洪水”前”です。彼は洪水前の信者でした。ええ、私はそのように考えています。エノクは教会の雛型です。そして、ノアはイスラエルの雛型。旧約聖書全体にたくさんあります。しかし、ダニエル書に入ると、もう一つ非常に興味深いのがあります。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ覚えていますか？ 日曜学校で学んだのを覚えていますか？ 恐らく？ あのパネルシアターでやりましたよね？ 彼らは燃える炉に入ります。ところで、その中にくつつかの詳細があります。彼らがああ燃える炉に投げ込まれた理由は、偶像を拝むことを拒んだからです。6つの楽器が演奏され、高さ60キュービット、幅6キュービットで、666。彼らはその偶像を拝もうとしませんでした。だから彼らは炉に投げ込まれ、ここでもう一つ、非常に重要な詳細があります。普通より”7倍熱くした”燃えさかる火の炉です。6じゃありません。調べてみてください。私の言うことを鵜呑みにしてはいけません。ベレヤの人たちのように聖書を調べ、これが真実かどうかを確認してください。8倍熱いのではなく、7倍。何という偶然でしょう。偶然はありません。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、イスラエルの予型です。彼らは7年間の患難時代を表す、7倍熱く燃え盛る火の炉に入れられます。そして、その真っ只中に救われるのです。ネブカデネザル王は啞然とします。

「私たちはそこに3人投げ込んだのではなかったか。四人の者が見える。第四の者は神々の子のような。」(ダニエル 3:25b)

そうです！それはイエスです！ 彼らは7倍の熱い火の炉のど真ん中で、イエスによって救われるのです。イスラエルが、イエスによって救われるように！ 彼らの真の救世主によって、7年間の患難時代の真ん中で。ダニエルはどこ？ あ～。いい質問。聞いてくださって嬉しいです。聞いてくれましたよね？ 彼はそこにはいません。なぜいないのですか？ お～、なぜなら、炉の”前に”、ダニエルは、取り挙げられ高い地位に上げられました。炉の前に、です。(ダニエルは、) 教会の予型です。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、イスラエルの予型です。それがいかに重要かわかりますか？ 教会とイスラエルを区別することが。最後に言わせてください。そして、すでに最後と言ったのは分かっています。しかし、これは最後の最後です。いいですね？

イエス・キリストの教会の携挙は、7年間の患難時代前に起こらなければなりません。だからあなたがた

は元気をだし、そして、互いに励まし合いなさい。私は、皆さんの多くが、非常に困難な時期を経験していることを知っています。そして私は、神の御言葉から、この言葉で、これらの言葉で皆さんを励ましたいと思います。私自身、とても励まされています。たぶん、皆さんには分からなかったでしょうが。私は心の中で考えます。あのラッパは、もういつでも鳴りえます。そして私の娘ノエルと、私の母と、私の父もだったらいいと思いますが、彼らは先に自分の体を得ます。肉体の復活が先です。そして、彼らは空中にいるのです。私は主に会い、空中で再び彼らに会うのです。まじ?! ところで、パウロはそもそも彼らに何について書いていますか? 彼は、彼らの亡くなった愛する人たちについて、彼らの質問に答えているのです。彼らはどうなるのか? それはすべて、携挙とどのように兼ねあうのか? これが最後の、最後の、最後になります。-(笑)- 面白いと思いませんか。私は面白いと思います。使徒パウロは、ちなみに、これは彼が書いた最初の手紙です。それが、このテサロニケ人宛でした。私たちが学んだように、彼はテサロニケへ戻りたいと望み焦がれていました。彼は町を追い出されたから。彼はたった3週間しかそこにいなかったと信じる人たちもいます。面白いと思いませんか。彼はこの教会を始め、わずか3週間しかいなかった、彼らに語り、患難時代前の携挙の健全な教義に関して彼らを励ましているのです。うわー! うわー! 彼の書簡の中で、初めて福音が書かれているのは、この教会に対してです。うわー! それは何を意味するのでしょうか。はい。私は最後だと言いましたから。では、祈りましょう。

主よ、ありがとうございます。私は今日ここにいる方、またはオンラインで見ている方のために祈ります。本当に傷つき、意気消沈し、落胆し、苦悩している方のために。主よ、私はあなたがこれらの言葉で、あなたの御言葉からのこの真理で、彼らを励まし、彼らの心を強めてくださることを祈ります。もう、まもなくすぐに、あのラッパは響きます。そして、生き残っている私たちは引き挙げられるのです。そして、私たちは永遠にいつまでもあなたと一緒にいるのです。主よ、早く来てください。マラナタ。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7